

事務事業名		高齢者等タクシー利用料金助成事業		所属部	健康福祉部	所属課	長寿障がい福祉課
総合計画体系	政策名	(Ⅲ) 支えあい健やかに暮らせるまち《保健・医療・福祉》		所属G	高齢者福祉G	課長名	糸原 幸子
	施策名	(22) 高齢者福祉の充実		担当者名	周藤 寛雅	電話番号	0854-40-1042
	目的: 対象	65歳以上の市民	意図	生きがいを持って、いきいきと暮らす。		(内線)	2152
	基本事業名	(065) 地域ケア体制の充実		予算科目	会計 款 大事業 大事業名	在宅福祉事業	
目的: 対象	65歳以上の市民	意図	住み慣れた地域で安心して暮らす。		項 目 中事業 中事業名	高齢者等タクシー利用料金助成事業	

1 現状把握【DO】

(1) 事業概要

① 事業期間	
<input type="checkbox"/> 単年度のみ	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (24年度～)
<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～年度)	
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
自動車の運転ができない高齢者等の外出時の移動支援のため、タクシーにも利用できる「市民バス優待回数券」の制度を24年度に創設、2年間の検証の後、H26年4月より、一部改正し本格実施。対象者：65歳以上高齢者、障がい者、難病患者、戦傷病者手帳保持者（H26年度より運転免許自主返納者にかかる無料交付については、総務部総務課へ移管）	

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動					
	27年度実績(27年度に行った主な活動)	28年度計画(28年度に計画する主な活動)				
	・市内タクシー事業者への回数券使用分支払 ・実績管理	・タクシー事業者への回数券使用分支払 ・実績の管理と事業の検証				
② 活動指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
ア	優待回数券年間販売額	千円	1,109	6,751	9,231	7,616
イ	タクシー利用分支払額	千円	954	7,422	14,091	13,000
ウ						
エ						

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)		③ 対象指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
	75歳以上高齢者、身体・知的・精神障がい者、難病患者、戦傷病者手帳保持者 ※H26年度より、75歳以上高齢者から65歳以上高齢者となったことから、「26年度(計画)」の人数等はそれぞれ65歳以上としています。		ア	75歳以上高齢者数(4月1日現在) ※H26以降65歳以上	人	8,596	14,460	14,572	14,572
			イ	75歳以上高齢者のみ世帯の人数(4月1日) ※H26以降は65歳以上	人	2,198	3,888	4,081	4,081
			ウ						
② 意図(対象がどのような状態になるのか)		④ 成果指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)	
タクシーを利用しやすくすることにより、公共交通機関の利用が困難な高齢者等も外出時の移動がしやすくなる。		ア	自主返納による無料交付件数	件	49	96	106	110	
		イ	市内の公共交通機関が便利だと感じる人の割合	%	29.0	-	-	-	
		ウ	市内の公共交通サービス機関に満足している市民の割合	%	36.7	42.2	45.0	45.0	

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (27年度決算)		② コストの推移		単位	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(計画)
優待回数券をタクシーで利用された際のタクシー事業者への回数券回収分支払 ●扶助費 14,091千円 ●印刷製本費 279千円 ・回数券購入分 ・自主返納者への無料交付分		事業費	財源内訳	国庫支出金	千円			
			県支出金	千円				
			地方債	千円				
			その他	千円	1,104	3,747	7,384	6,093
			一般財源	千円		3,717	6,986	7,690
			事業費計(A)	千円	1,104	7,464	14,370	13,783
		人件費	正規職員従事人数	人	7	8	8	
			延べ業務時間	時間	70	140	200	
			人件費計(B)	千円	273	544	783	
			トータルコスト(A)+(B)	千円	1,377	8,008	15,153	

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
高齢者のみ世帯が急増し、運転免許を持たない、バス等公共交通の利用が困難、などの理由により、通院や買物のための移動困難者が増えている。	市民バス再編計画を策定し、24年度から段階的に実施していくが、それでも移動困難が解消されない住民もいると思われる。H26年度より、対象範囲の拡大及び、助成額の拡大・利用上限額の拡大を行った。	独居高齢者世帯や低所得者に対する移動支援サービスが求められている。議会より、事業目的と反する利用があるのでとの指摘がある。

事務事業名	高齢者等タクシー利用料金助成事業	所属部	健康福祉部	所属課	長寿障がい福祉課
-------	------------------	-----	-------	-----	----------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性	この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？	見直し余地があるとする理由
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	* 余地がある場合⇒
	② 公共関与の妥当性	なぜこの事業を市が行わなければならないのか？ 税金を投入して達成する目的か？	
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	* 余地がある場合⇒	
③ 対象・意図の妥当性	対象を限定・追加する必要はないか？ 意図を限定・拡充する必要はないか？		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である	* 余地がある場合⇒	
B 有効性	④ 成果の向上余地	成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方はあるか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	<input type="checkbox"/> 向上余地がない	理由 毎月、新規購入（発行）があり、徐々に本制度の周知がなされているものの、対象者数に対し、利用者がまだ少ない現状。 より一層の制度周知に努める。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有	理由 外出支援の一助とする本制度であり、廃止した場合、現利用者の利便を大きく損ねることとなる。	
⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	目的達成には、この事務事業以外の手段（類似事業）はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		
<input type="checkbox"/> 他に手段がある	* ある場合⇒	(具体的な手段や類似事業名)	
<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない	理由 障がい等を要件とする限定的な制度は他にあるものの、高齢者を対象に含む交通支援策は他にない。	
<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない			
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地	成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 平成26年4月からの制度改正により、大幅な事業費増となっているが、当初の目的である、高齢者等の外出支援の趣旨を鑑みれば、やむを得ない。 H29.4月に向け、H28年度は制度の検討が必要。 突出した利用を抑制し、券面額や、利用可能額等を見直す予定としている。
⑧ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		
<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 タクシー利用による、実績の確認に要する事務量が增大している。また、販売窓口業務についても、実績の増に伴い、増加しているため、現状、削減の余地はない。	
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由 優待回数券は割引するが有料で購入してもらうもののため、不公平感は大きく感じられないと思われる。
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括（根拠と理由）
	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	平成26年4月の制度改正以降、高齢者のみならず、障がいがある方々等幅広くご利用いただいている。8割の方が年間2万円未満の利用であり、他市制度に見られる利用券交付事業と同額程度である。利用者からも、病院、買い物等に本当に助かる等の声をいただいている。ただし、利用の増に伴い事務量が增大していることから、事務処理方法を検討したい。
B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		
C 効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり		
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																							
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> <p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		●	×																				
	低下		×	×																				
<p>・基本的にはバスの乗車券であることから、バス料金の改定等により券面額が左右され、タクシー利用の際の利用が煩雑になる可能性がある。 現在の基本となっている、「バス乗車券」の発想から、「バスでもタクシーでも利用できる券」等、独立した事業とすることも検討が必要。 ・事業そのものは包括的な外出支援策として、継続するものの、年間販売制限や券面額、1回あたりの利用上限額等、より効率的な運用を検討したい。</p>																								